

連続講座 11月14日(金)「教科書を上手に使うって授業を創る技」

小牧中学校の授業検討会より・・・

- 教師が力量を上げるには、素直になること。自分を見つめ、自分の課題を素直に受けとめていく。それを互いにはっきり確認しあう。



玉置先生の「授業力」の価値付けの変遷

- 若い頃、業者テストの成果に熱中
「わかる できる 身につく」のために繰り返しが必要。そのためには、教科書の問題の質・量の徹底分析、教材観・指導観を固める、集中力と再現性を子どもに求めるなどを行った。
- 子どもの言葉と動きで創る授業づくりに熱中
(向山洋一・有田和正・野口芳宏氏より刺激を受ける)
子どもの発言のおもしろさから授業を考える。
- 教科書のネタを上手く使い、子どもとともに授業を創り出すことのおもしろさを感じる。
ごく普通のネタでもおもしろい授業はできる。ビデオで課題を子どもたちに提示する。

4 そして、現在へ

- いつもノートを傍らに置いて教材や教育資料をメモする。
- 経験は意図的に積んで整理する。記録を残すこと(デジカメ・授業メモ)を意図的に行う。
- 落語を授業に・・・「授業は攻めと受けの絶妙なバランスの上で成り立つ」受けの訓練・復唱法

教科書を上手に活用するために「教科書の行間を埋める・読む」

教科書に記載されている最小限の内容や情報の中に隠されている必然性や系統性、内容の発展性を読みとり、授業の場面で見出す。説明することと子どもたちから引き出すこととを区別しておく。

- なぜこのような記述がされているのか、なぜこの数値なのかを考えながら教材研究
授業の場面で
- 導入の時に子どもたちに教科書を開かせない
教科書に書かれていない思考のプロセスを始めに体験させ、子どもたちの考えを引き出した上で教科書で確認させると、子どもたちが発見したことが教科書に・・・
- 作業の中で子どものつぶやきを聞き逃さず、子どもの言葉で授業をつないでいく。
教室で起こったことすべてを板書にとる。ノートは漠然ととらせない。

連続講座 11月21日(金)「コンピュータのよさを生かして授業を創る技」

コンピュータを活用した授業変遷

1 プログラム学習：C A I

コンピュータが教師の代わりに しかし、現在はC A Iの教育はほとんど行われていない。

2 提示型・シミュレーション型から発見型への発展

教材としてのコンピュータを活用したり、コンピュータでしかできない学習(情報を入力することで、そこから帰ってきた情報を子どもたちが整理することにより概念や法則などを発見できる)が可能と考え、ソフト開発を多く行った。

3 現在：ネットワークの活用

同じ教室・授業内での掲示板への意見の書き込みにより、リアルタイムに互いの考えを確認することができる。しかも、ほかの子どもたちの意見を知った上で意見をさらに積み上げていくことが可能。

インターネットの活用：教材の宝庫である

教材が無数に情報として存在しているのでそれを上手く活用する。

<例>

T O S Sインターネットランド

<http://www.tos-land.net/index2.php>

G C / J A V A , G R A P E S

<http://www.auemath.aichi-edu.ac.jp/dgs/index.htm>

<http://www.osaka-kyoiku.ac.jp/~tomodak/grapes/index.html>

情報教育ナショナルセンター

<http://www.nicer.go.jp/>

授業の活用例として

- 家庭科での針の運針の動画をダウンロードして子どもたちに提示する。
- 社会の統計資料をグラフでリアルタイムに提示する。
- 算数・数学での作図ツールを活用して図形の学習に生かす。教科書では静的な図が、コンピュータで提示することで、動きが拡がり連続的な学習へと発展することができる。
コンピュータの活用の良さ
- コンピュータでシミュレーションをすることで子どもたちが必要な情報を整理することができ、知的な活動が活発になる。子ども自身で自分の仮説が試せる。
- 授業が躍動的になる。
- プロジェクターを活用してダイレクトに黒板に教材を投影することで、そのまま板書を書き込むことができる。
コンピュータを活用するに当たって
- コンピュータでその教材や題材を扱う良さがどこにあるのかを確認する。 教材研究・授業論に行き着く。
- コンピュータ室の学習だけでなく、ノートパソコン・プロジェクターを気軽に教室にもっていき授業をしていくことが可能。
玉置先生のホームページ：<http://www.k-net.or.jp/~kndm0037/>



模擬授業の風景